



▲九州青年の船出迎え風景（上海）

## 青年海外派遣事業

# 若人と国際交流

## 青年活動の推進者たち

青少年の健全育成事業については、各種各様な事業が実施されておりますが、青年を海外に派遣し、青年自らが自分の目で自分の耳で、海外の産業、文化、青年の生活実態を見聞し、あるいは相手国の開発に協力する中で海外の青年と交流しあうことによって国際感覚を身につけるとともに、日本を離れ「日本の正しい姿を考える機会を与え、広い視野にたった青年活動の推進役となるリーダーの養成を目指しているのが「青年海外派遣事業」です。

ここでは、海外青年の受入事業とも合わせ現在どのような海外派遣事業が実施されているかを紹介するとともに、参加者の声の特集します。

## 九州青年の船事業

昭和四十七年度から「九州は一つ」の合言葉のもとに、九州各県が協力しあって、チャーターした船で、各県在住の青年をこの船に乗船させ、船内研修、訪問国での視察見学、現地青年との交歓会等を実施しているが、四十七・四十八年度は、香港、フィリピンを訪問し、本年度は、中国を訪問した九州各県の乗船人員は、一般団員四十三名、班長三名、役員講師四名、計五十人が乗船した。

中国では、上海、天津、北京の各都市を訪問し、人民公社（農業生産組織）、学校、工場、住宅等の参観のほか、中国青年との交歓会、天安門、故宮博物館や万里の長城等中国の古い歴史の跡も見学している。

来年度は、熊本県が幹事県となり再び中国を訪問する予定でその準備が進められている。

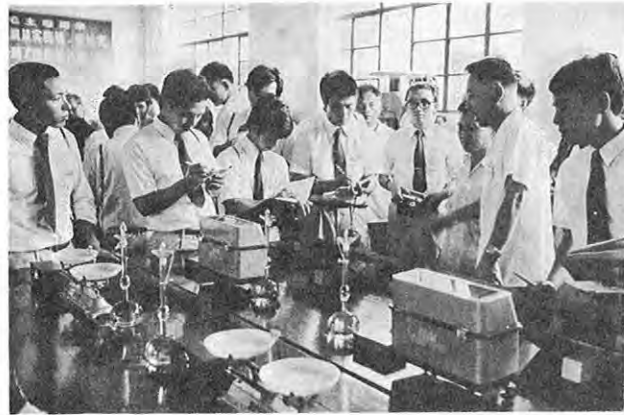


## 「九州青年の船」に乗船して

鮑託郡河内町（農業） 滝口 幸司

今回の九州青年の船は第三回目にして初めて「九州はひとつ」というスローガンの下に九州八県の青年が一堂に揃い、「新生中国」の実情を膚で吸収して来ました。中華人民共和国はご承知のとおり、二年前に国交正常化したばかりの国です。しかも日本と思想的に全く違う社会主義体制の国です。そればかりでなく、その中国に対してつい数十年前に我が国は侵略戦争を続けて、物心ともに莫大な損害を与えてきました。そういった意味から、歴史的、政治的に重大な背景と使命を持った友好親善の青年の船であった訳です。それで乗船前から期待というより、大きな不安と責任感を抱いていました。

しかし、上海、天津、北京での一週間に亘る訪問地活動を終えていちばん感じた事は、中国人民が日本人よりも遙かに熱烈に友好を望んでいるということでした。また政治体制や風習は違っても人間同志の心と心の触れ合いでそれを乗り越えて、相互に信頼し理解し合えるということが確信できました。日中の友好は政



▲上海の大学の科学実験室での学習

治でも経済でもない、まさに相互信頼と理解の土台の上に立って推進されなければならぬことを痛感しました。昼夜を問わない市民の人達の歓迎、各参観地での歓待それに涙で別れた港での情景を思い出すにつけ日本と中国の一日も早い平和条約の締結、友好往来を願わずにはいられません。今回の訪問で両国人民の

間に新しい「友好の芽」が数多く咲いたのは確かであると思います。しかし、その芽を日本の土壌で如何に大きく育てて行くかは、私達団員は勿論のこと日本国民にとっても大きな課題であると思えます。

また一方、こういった日中友好推進という大きな観点からの成果の他に、人民公社、工場、学校、病院、福祉施設などの見学や市民との交流会それに青年との座談会を通して中国を政治・経済・文化・教育等あらゆる角度から知ることができたのも貴重な体験になりました。特に現在の日本は高度経済成長の歪みとして、公害、物価、交通、老人、青少年問題等数多くの問題を抱えている訳ですがそれらの問題点の解決の「糸口」を中国の社会の中から見出すことが出来たのは大きな収穫であったと思います。

今回の青年の船は二週間という短期間ではありましたが、初めての海外生活を体験することができました。そして何よりも、大きな視野に立って日本という国を見つめることが出来たことは青年期の自分にとって本当に意義深いことでした。それだけに、中国訪問で得た成果を社会の為に還元していく事は今後課せられた大きな使命であると痛感しています。